

幼児教育におけるメディアの効果的な活用法を探る

○企画者:堀田博史(園田学園女子大学)

話題提供者:佐藤朝美(愛知淑徳大学)・松山由美子(四天王寺大学短期大学部)

1. 本シンポジウムの企画主旨

幼児期における教育の重要性の認識がますます高まる中で、「幼児教育におけるメディア活用」が、現代の教育転換に大きく遅れていることが、学術的な問いの核心にある。そのひとつが、保育活動や園務、保護者支援で発生するデータを情報ネットワークにより有機的に連携させることであり、それを実現するツールが「タブレット端末」と考えられる。

そこで、本シンポジウムでは、幼児教育にタブレット端末等を活用した最新の研究事例をもとに、メディア活用の可能性に迫る。

2. 黎明期を迎える幼児教育でのメディア活用

家庭における、幼児のタブレット端末活用の増加は、安易に想像できる。実際、録画番組やDVD、動画を視聴するメディアとして、2015年の16%から2017年24%と増加傾向にある^[1]。一方で、保育現場では、テレビやゲーム、スマホやタブレット端末というだけで、遊びや学びを阻害する要因と捉える風潮が未だに強い。

このような中、幼児教育にメディアを取り入れる保育実践や研究が徐々に行われている。

3. 研究事例

3.1. 保育でのタブレット端末活用事例集の作成

保育でのタブレット端末の活用は、少数ながら園独自の取り組みや企業支援のもとで展開されている。しかし、それらの取り組みをまとめたWebサイトや資料は存在していない。そこで、提案者の堀田は、保育でのタブレット端末の活用場面を整理したリーフレットを作成、その特徴を示した^[2]。

3.2. 園と連携するファミリー・ポートフォリオの可能性

提案者の佐藤は、過年度研究で子どもの育ちに関わる気づきや家族の情報を写真とともに蓄積するファミリー・ポートフォリオを構築し、親としての発達・親性の向上を得ている。次に、園と保護者の双方から子どもの園での活動共有の要望があり、蓄積された写真データを活用して子どもの学びを共有する図1の構想に至り、開発を進めている。

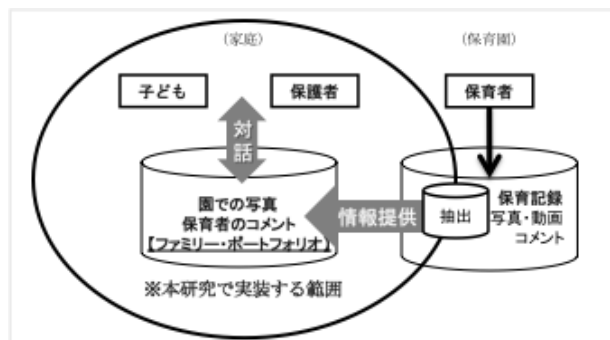


図1: 子どもの学びを共有する家庭と園との連携の全体像

3.3. 幼児の学びと保育者の援助を支援するタブレット端末アプリの開発

提案者の松山は、幼稚園における幼児の学びと保育者の援助を支援するために、保育場面で幼児の発見や感動、他者に伝えたいことを静止画(位置情報付き)と音声で記録することができ、それらを同じクラスの幼児や保育者と共有するアプリを開発した。これらのデータが、幼児が保育現場で身につけることを望まれている協同性や創造性、思考力、表現力などをより豊かにするための手助けとなるかを検証中である。

3.4. NHK E テレの活用で育まれる力

保育でNHK E テレを継続視聴している幼稚園を対象に、E テレ活用を通して可視化される非認知スキルを調査した。結果、保育におけるE テレ活用において、クラスで同一視聴し、感想等の話し合いや感じたことをもとに事後活動をすることで、「物事に取りかかるとき、計画的に進める」という非認知スキルの伸びが可視化できる可能性が示された^[3]。

<参考文献>

- [1] 「幼児のテレビ視聴と録画番組・DVDの利用状況～2017年6月「幼児視聴率調査」から～」、星暁子・渡辺洋子、放送研究と調査2017年10月号、p.39、2017
- [2] 「保育でのタブレット端末活用を促す事例集の作成」、堀田博史ら他6名、第70回日本保育学会発表ID.183、2017年
- [3] 「保育での放送番組の活用で幼児期に育まれる力～非認知スキルに注目して～」、土井沙織ら他4名、日本教育メディア学会研究会論集、第42号p.39-42、2017年